

スーパー耐久シリーズ 2017 第4戦 TKU スーパー耐久レース in オートポリス 「**確報版レポート**」



専門学校 **日産愛媛自動車大学校**

このプロジェクトは下記のパートナー企業に支えられています



このプロジェクトの概要

KONDO Racing ×日産自動車大学校「学生参加プロジェクト」は今年で6年目を迎えた。このプロジェクトは学生スタッフが各領域に分かれてレースの世界に関わり、チームワークや責任感を育む活動である。

KONDO Racing 河野 初樹さん



6年目を迎えて このレースは他のレースと違い、日産自動車大学校の学生と共に進めている特別なプロジェクトである。継続させるには様々な困難もあるが、学生の喜んだ姿や楽しそうな姿を見るたびに、今まで5年間続けてきて良かったと感じている。

また、このレースを続けているのもチーム全員が努力を怠らず、自分の仕事を全うし、チーム一丸となって戦って来られたからだと思う。この活動を通じて学生スタッフには、組織として1つの目標に対し、失敗や苦手な事から逃げる事なく「**自分がやることで相手を助ける**」という意識を持ち、目標を達成してほしい。

最後に、この活動を支えていただいている方々に感謝の気持ちを申し上げます。今後ともご支援の程よろしく願いいたします。

学生の活動の様子

◇マネジメント領域



ピットウォーク



ランチサービス



会場設営

2年生 小西 大雅

昨年度参加した際に、チーム活動をする事の大切さが心に残り、今回リーダーとして参加しました。その経験を活かして、今年は特に丁寧な言葉遣いでお客様対応をすることを意識しました。

今回の活動を通して、リーダーとしての責任感は勿論のこと、班をまとめる難しさを知ったうえで自分から積極的に行動できるようになりました。この経験を活かして、販売会社に入社してからは上司に頼られ、自分の意見をしっかり伝えられる整備士になります。



◇テクニカル領域・ドライバーサポート領域

ドライバーサポート



タイヤ交換



車検を終えて



タイヤメンテナンス



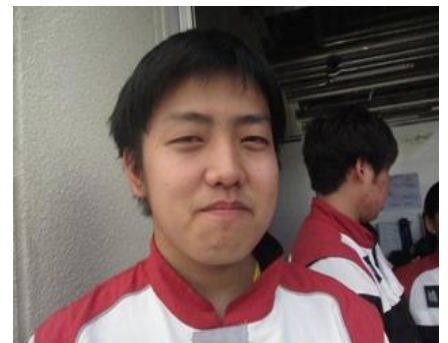
1年生 御手洗 佑太

この活動を愛媛校のオープンキャンパスで知り、入学後は、普段できない貴重な体験をしたいと思い参加しました。

私はテクニカル領域の担当になり、ピット作業を楽しみにしていましたが、そんなに甘いものではありませんでした。

活動を終えて、現場の緊張感や自分の仕事への責任感を感じることが出来たからこそ得られるものも大きかったと実感しています。

今回学んだことは、積極的に行動することです。待っているだけでは何も始まりません。この経験を活かして自ら率先して行動していく姿勢を身に付けていきます。



3年生 今城 暁尋



この活動でドライバーサポートを経験するのは2度目なので、今回は、昨年经验していたことを活かし、スタッフの方々とのコミュニケーションを怠らず、自ら率先して行動していくことができ、とても充実した活動になりました。

3年間この活動に参加して、組織で一つのことを成し遂げる難しさとそれを成し遂げた時の達成感を味わうことができました。3年間続けてきて良かったと感じています。

就職してからは、周りとのコミュニケーションをとり、お互いに助け合い、困難な事を乗り越えていける整備士になります。

◇STO（スーパー耐久機構）領域



生中継カメラサポート



出張車検



スタート進行

1年生 濱田 潤

高校3年生のときにオートポリスに招待していただき、レースについての知識を深めたいと思いこの活動に参加しました。

今回の活動で大切だと感じたことは、常にベストな状態で挑むということです。自動車を整備する上でミスは許されません。一人一人が自分の役割を理解し作業に取り組み、完璧な整備をするということが大切であると実感できました。さらに、人とのコミュニケーションをとることでお互いに助け合い一つの目標を達成するという団結力を学ぶことが出来ました。今後この貴重な活動で得たことを授業や就職先で役立てていきます。



◇広報領域



3年生 河野 希一

私は、広報部として3年間参加させていただきました。1年次は、右も左も分からず先輩に頼りきりでしたが、活動して行く中で自分がどのように行動するべきか考え、出来る限りの努力をしました。

今年はリーダーとして、自ら周りをリード出来るようになったと実感しました。この活動で、多くの方々と話せるチャンスを活かしコミュニケーション能力の向上を図れたと感じています。

今後この経験を活かし、就職した際にはお客様の気持ちにしっかり応えられる立派な自動車整備士になります。



その他の活動

・JVCKENWOOD 様 特別授業

今回の講座ではドライブレコーダーについて詳しくお話をしていただきました。

JVCKENWOOD 様は、走行中の映像を鮮明に記録するドライブレコーダーでお客様に安心と思い出づくりを提供していただいています。機器から発する電波を少なくして他の電子機器の誤作動を防いだり、同じ場所の画像を数枚撮影し明るさを変えて合成する HDR 技術を使用し明瞭な映像を記録する工夫がなされています。

今回の講座を通して、お客様に安心して自動車に乗っていただくためにもドライブレコーダーは欠かせない商品であることを理解し、新しい視野から自動車を見つめることができるようになりました。



JVCKENWOOD 国内マーケティング部 日産グループ担当部長 石井 泰樹さん



この度は、日産自動車大学校のみなさんに我々の商品を知ってもらうためプロジェクトに賛同しました。

この活動に参加している学生は挨拶がしっかりでき、若さゆえのエネルギーも感じました。

学生の皆さまには、今回の講座で学んだことを就職した際の商品知識として役立てていただけたら光栄です。

・コースウォーク、コントロールタワー見学

オートポリス様のご協力により、コースウォーク及びコントロールタワー見学を実施しました。

普段は入ることの出来ない施設で見学・体感させていただき、改めてこの活動が多くの方々に支えられていることを実感しました。

コースウォーク



コントロールタワー見学



決勝レース結果

Pos	No	Car	Driver	Lap	Time
1	8	ARN Ferrari 488 GT3	永井 宏明 / 佐々木 孝太	95	3:00' 48.338
2	777	D' station Porsche	星野 敏 / 荒 聖治 / 近藤 翼	95	3:00' 49.445
3	89	HubAuto Ferrari 488 GT3	Morris Chen / 吉本 大樹	95	3:01' 11.891
6	1	スリーボンド 日産自動車大学校 GT-R	内田 優大 / 藤井 誠暢 / 平峰 一貴	87	3:00' 58.581



この活動について、 取材をさせていただきました。

KONDO Racing チーフメカニック 武田 敏明さん



初日に、今年の愛媛校の学生は「大人しい」と思い、学生に「見学に来たわけじゃない、体験しに来たんだぞ！」と伝えた。すると次の日、学生の目つきが変わり、動きも良くなったと感じた。

これは緊張していたという点もあるだろうが、それぞれが行動に責任を持ち始めたからだと思う。

この活動を通して学生にはモータースポーツの世界で達成感を味わい、そこから新たな課題を見つけ、自ら進んで考え、課題を達成できるように

なってほしい。

チーム全員で1つの目標に向かって取り組む時、一人も欠けずに目標を達成することはとても難しい。しかし達成できた時の喜びはとても大きい。そのためにも、しっかりとコミュニケーションをとることで意思の疎通を図り、そこから互いに助け合っていくことが一番大切だと思う。

Aドライバー 内田 優大選手



この活動は、学生と一緒にできる楽しさがあり、私は学生を見ていつも初心に戻ってレースに挑んでいる。

学生スタッフにはこの活動を通して、一人一人が責任感を持って仕事に取り組むことを学び、自動車整備のプロとして今後、羽ばたいて欲しいと思っている。そのためにも日頃の努力を怠らないで欲しい。

Bドライバー 藤井 誠暢選手

この取り組みは、他のレースと違って学生と一緒に活動が出来るのが楽しい。レースに勝ち続けていくためには、ドライバー、メカニック、チームスタッフが自分の持っている力を十分に引き出すことが重要。学生スタッフにはこの活動に参加できたチャンスをものにし、プロのスタッフの仕事や取り組み方を学び、社会生活で活かして欲しい。



Cドライバー 平峰 一貴選手

レースで勝ち続けていくためには常にモチベーションを高く持ち、自分の役割をそれぞれがミスなくやり遂げることが大切だと思う。

自分は学生と年齢が近く、共に活動をして素直に楽しい。このような環境の中で学生が活動できることは普通ではなかなか経験することができないことだと思うので、自分の勉強になることをどんどん学んでいきたい。

学生には社会に出て、良い時や悪い時があると思う。悪い時にどれだけ踏ん張れるか、今回学んだことを活かして、自分の粘り強さを各場面で発揮して欲しい。



日産自動車株式会社 専務執行役員 星野 朝子さん

前回、富士スピードウェイで観戦した際にとても感動しました。また、今回のオートポリス戦も拝見させていただきたいと思い参加しました。

普段、私は自動車を販売する立場なので、モータースポーツが一般のお客様に対して、どのように影響を与えられるか、そのような視点で観戦しています。モータースポーツは単に車好きだけの世界で終わってはいけないと思っています。モータースポーツは高速で安全かつ、メカニックのレベルの高さが表現できる貴重な場だと感じています。今後も互いにレベルを高め、より周囲から評価される存在になってもらいたいです。

自動車整備士は「車が好き。」というだけでは長く続きません。自動車整備士としてのやりがいを見つけて、多くの事に挑戦できる人材を我々は求めています。

この活動を通じて、学生にはモータースポーツを通じ、負けた時の悔しさや、勝つときの喜びを味わい、多くの事にチャレンジしてほしいです。



日産愛媛自動車大学校 統括 大政 浩行先生



2012年度から始まったこの活動は今年で6年目を迎え昨年は年間チャンピオンを獲得することが出来ました。今年は、ゼッケン「1」を背負いそのプレッシャーの中で優勝を重ねてきましたが、残念ながらオートポリス戦では思い通りの結果とはなりませんでしたが、しかし、あと2戦を残しておりますので今年も年間チャンピオンになることを確信しております。今年の愛媛校は毎年の事ながら多くの未経験者で構成されています。私たちは経験者で固めてこの活動を確実に終えるのではなく、この活動で新たなことに挑戦し、成長をするチャンスの場として将来の自分に活かしてほしいという思いから、スタッフの大半を未経験者から選出しています。毎年、学生たちはその趣旨を十分に理解してくれ、この活動の後では大きく成長してくれていると実感しております。今後もこの愛媛校の特色を活かして、この活動をさらに有意義なものにしていきたいです。

全体リーダー 3年生 清水 雄太

前回のオートポリス戦を終えてから、私も先輩方のように周りの人をまとめ、大勢の前で堂々と話せるようになりたいと感じ、リーダーをすることを決断しました。

この日のために、先輩方から経験談を伺い、各班リーダーとイメージを重ねてきました。

全体リーダーを経験して、常に状況を把握し、みんなとコミュニケーションをとることやメリハリをしっかりつけることの大切さを学びました。

今回、全体リーダーとして学生スタッフを見つめると、自ら考え行動することや、状況に応じた判断力やお客様対応力が日々身に付いていくことを改めて実感しました。

自分自身、この三年間で、自ら進んで行動し、人と会話をする際には自信をもって話せるようになりました。

次回の富士スピードウェイ戦はシリーズ優勝を左右する大切な一戦であり、長いレースの為、大変だと思いますが優勝を目指して頑張ってください。応援しています。

そして何より、この活動に参加出来ているのはたくさんの方々のご支援があるからです。今後もより良い活動となるようスタッフ一同、努力していきます。これからもご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



この活動をご支援いただき、感謝を申し上げます。

学生一同、これからも精一杯取り組んでいきますので、

今後とも熱いご声援の程宜しくお願いいたします。

制作:愛媛校広報部 河野 希一・山城 和也・宇都宮 洋介・大野 雅治・西村 亘平